

監訳の後書き

昔から「骨折」にはご縁があるかもしれない。

小学3年生のとき、地元のスキー場で派手に転倒し、脛骨を「骨折」した。ギブスをカットされるときに自分の足が切れるのではと恐怖を感じた。

高校3年生のとき、サッカーの練習試合中に手関節背屈で転倒し、舟状骨を「骨折」した。大会直前だったのでお願いしてギブス固定は行わなかった。

大学5年生のとき、サッカーの大会中に相手の肘が顔面を強打し、鼻骨を「骨折」した。大会終了後に形成外科で整復してもらったが、今も鼻は若干曲がっている。

医師になってから「骨折」したことはないが、プライマリ・ケアや救急診療を生業としているので、「骨折」した人を診療することは多い。また最近研修医に「骨折」を教育することも増えてきた。そのようななかで、この「Fracture Management for Primary Care and Emergency Medicine」と出会い、今回監訳をさせていただくことになった。

この本を自分の傍らに置いて、これからも「骨折」とのご縁を大切にしていきたい。

2022年2月

西伊豆健育会病院 内科
吉田英人